

巻頭言

大阪体育学会会長 河鱈一彦

令和4・5(2022・2023)年度、大阪体育学会会長を拝命しました河鱈一彦です。関西学院大学に勤務し人間福祉学部人間科学科の所属です。この度の会長就任に際して所感を述べさせていただきます。コロナ禍が何とか終息した昨今ですが、2020年初頭からのCOVID19に対処する政府や各機関の対応や施策に関しての評価はこれから厳しくされるべきであり、この評価の際にわれわれ体育人が参画するフィールドは多くあると考えています。この辺りは若手会員の皆様に期待する次第です。大阪体育学会では本年度より「研究助成」を設定し会員の皆様への研究助成をおこなっています。このような時局的な研究テーマが機関誌である「大阪体育学研究」に掲載されればメディアをはじめ各界からの注目度はより高まることが予測されます。もちろん時局的なテーマだけでなく長い時間をかけて醸成された研究発表の場として活用いただくことも重要なことです。

大阪体育学会の会員数は微減を続けており現在は400名を切る状況です。大学体育教員が大阪体育学会の主構成員であることは1960年代の大阪体育学会草創期から変わらぬ傾向です。大学体育教員の会員に支えられてきた大阪体育学会ですが、大学全入時代が到来し大学教員数の大幅な採用増が期待できることはないと考え、ことに妥当性があり、会員数の減少傾向は避けられないとも言えます。しかし、会長を仰せつかっている以上、当職は会員減少という学会の存続にかかわる根本的課題に何らかの手立てを講じなくてはなりません。そこで、問題解決のために大学教員の「業務」と「業務に対する評価」を俯瞰いたします。まず思い浮かぶのは「大学教員は常にスキルアップが求められ、その結果明示

を要求され、最も重要視されるのが「研究成果公表・論文公開」であるということです。このような大学体育教員を取り巻く環境から考察すると大阪体育学会において、是非会員の皆様には大阪体育学会大会を論文作成のプレデスカッション・公表の場として利用し、ここの成果を活かし大阪体育学研究へ投稿をお願いする次第です。会員皆様と大阪体育学会との積極的な関係により「避けられない会員減少と学会活性化」という対立するかのよ
うな概念が止揚され「大阪・近畿地区外からの会員獲得」「幼稚園、小学校、中学校、高等学校教員の大阪体育学会会員登録数の大幅な増加」等の新たな展開が期待できると考えて
おります。

さらに大阪体育学会の存在意義はいままで述べた以上に深いものがあるものと小職は考
えております。その理由を以下に述べさせていただきます。大阪体育学会は日本学術会議
協力学術研究団体に登録された学術研究団体です。会員の皆様が所属される大学や研究機
関においての「日本学術会議協力学術研究団体に登録」に対する認識や評価については多
岐にわたると想像できます。小職が所属する大学においては「就任、昇進等の際審査対象
とする論文等掲載誌は日本学術会議協力学術研究団体に登録された団体の機関誌とする」
流れが起きつつあります。推測の域を出ませんがかなりの数の大学においてこのような合
意形成がなされているのではないのでしょうか。「日本学術会議協力学術研究団体登録され
ていない学術団体より登録された学術団体への投稿」の流れはさらに強まることが予測
できます。

話は飛びますが日本人として初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は大阪大学
(当時は大阪帝国大学) 在職中に受賞論文を創作されています。掲載誌は Proc.Phys.-

Math.Soc.Japan つまり日本数学物理学会の予稿集 1934 年でした。以前、恩師に「なぜ日本の学会が発行した学会誌に掲載された論文がノーベル物理学賞の選考委員会の目に留まったのですかね」と質問したところ「英語で記載されたから」と回答されました。恩師の回答は不完全であるかもしれませんが、あながちでもない可能性は高いといえます。このことを溝畑理事長はじめ事務局の先生方に話をし、よもやま話をしていると「大阪体育学研究の使用言語、英語のみにしますか」という極端な意見もありました（もちろん冗談です）。しかし、大阪体育学研究に投稿・掲載された論文をなんらかの形で英語化することは、昨今の学術団体を取り巻く環境を考えると重要な施策であると考えます。もちろん、オリジナリティーや 2 次出版の問題を考えると乗り越えなくてはならない課題はありますが挑戦することは大阪体育学会発展の一助になるのではないかと思いを巡らせています。

以上所感というよりまとまりがない雑感を述べさせていただきました。会員の皆様におかれましては是非、大阪体育学会のホームページにアクセスください。本年度よりリニューアルされより多くの情報が組み込まれ、使い勝手が良くなっております（私見ですが）。なにより、学会活動、小職が上述した施策等に「お問い合わせ」を通してご意見いただくとありがたいです。

最後になりますが、きたる新年度も会員各位のご健勝、ご活躍を祈念して筆をおきます。